

2 0 2 1 年 度

事 業 報 告 書

(概要版)

自 2 0 2 1 年 4 月 1 日

至 2 0 2 2 年 3 月 3 1 日

一般財団法人 関西観光本部

はじめに

2020 年 1 月下旬以降、一進一退を繰り返しながらも長引く世界的なコロナ禍にあって、感染拡大防止策の一環として国境をまたぐ往来が制限されている。2019 年に 3,188 万人を記録した訪日外国人旅行者数は、2020 年は前年比 87.1%減の 411 万 5,900 人、2021 年には前年比 94.0%減の 24 万 5,900 人へと減少し、日本政府観光局 (JNTO) による統計公表開始 (1964 年) 以来最低の数値となった。国連世界観光機関 (UNWTO) によると、2021 年の国際観光客到着数は 4 億 1,1500 万人と、前年比 4%好転したものの、パンデミック前の水準に遠く及ばないとしている。UNWTO 専門家委員会の最新の調査によると、2022 年の見通しは良くなると見込んでいるものの、多数の専門家は、国際観光客到着数が 2019 年の水準に戻るのは、2024 年以降になると予測している。

このように急激かつ長引くインバウンド環境の悪化を受けて、関西観光本部（以下「当本部」という。）では、2021 年度において、①インバウンド再開を見据えた広域観光の基盤づくり、②訪関西機運の維持醸成、③国内観光需要の関西への取込促進を活動の柱としつつ、適時適切な事業実施を進めるとともに、大阪・関西万博が開催される 2025 年を目標年次として、④関西の広域観光のビジョンを示す「関西ツーリズムグランドデザイン 2025」の策定に注力してきた。

具体的には、第一に、インバウンド再開に備えた基盤強化では、関西一円への誘客を促す広域観光 8 ルート「THE EXCITING KANSAI」の形成に向けて、「山陰海岸」、「丹波」、「神戸～淡路島～徳島」の 3 つのルートの旅行商品の造成や 7 言語によるデジタルパンフレットを作成するとともに、訪日旅行者に関西の魅力を伝える「The KANSAI Guide」を 12 月に全面リニューアルし、検索行動者のサイト訪問者（オーガニック流入）数の昨年度対比は 781.7%と大幅増加した。また、観光の人的インフラである通訳案内士の育成、ホテルコンシェルジュのネットワークの構築にも取り組んだ。

第二に、訪関西機運の維持醸成では、7 月に、東京オリンピック・パラリンピック東京都メディアセンターの PR ブース出展に加え、ドバイ万博におけるプロモーションとして、10 月から 3 月にかけて、日本館パビリオンにて関西広域観光を紹介するパネル設置や「Spiritual KANSAI」動画を上映した。また、1 月には台湾、3 月には中国とのオンライン大商談会を主催し、10 府県 4 政令市や関西の旅行事業者等と、両国の旅行事業者や教育旅行関係者等と各々 1,000 を超える商談を実施した。さらに、オンラインによる特別文化体験のコラム・動画提供、プレミアム文化観光ツアー造成なども精力的に実施した。加えて、高級海外旅行誌「National Geographic Traveller UK」を通じた訴求、東南アジア市場を対象としたランドオペレーターや豪州の旅行会社・メディアを対象としたファミトリップ等を行った。

第三に、国内観光需要の関西への取込促進では、関西ならではの上質なステイ、美食、特別な文化鑑賞や体験、快適な移動体験を中心に新しい関西を訴求する観光情報サイト「Premium 関西」を 11 月から本格運用を開始した。

第四に、「関西ツーリズムグランドデザイン 2025」の策定では、7 名の有識者の方々による有識者会議を開催し、「関西のインバウンド観光に関する提言」を取りまとめ、それをもとに、関西 2 府 8 県の地域・行政、民間、有識者等からなる策定会議での議論を経て、3 月に同グランドデザインを策定した。

この他、組織基盤やネットワーク強化に向け、3 月に関西インバウンド交流会 on the WEB を開催したほか、国内観光需要の関西への取込みも睨んで、関西広域観光ルートを国内向けに紹介するプロモーション番組を制作し、国内航空路線の機内で上映を行うなどの新たな取組みも行った。

本事業報告書は、2021 年度に当本部が行ったこれらの取組みについて、主要な結果ならびにその成果を報告するものである。

1. インバウンド再開を見据えた広域観光の基盤づくり

1) 広域観光ルート「THE EXCITING KANSAI」の推進

関西一円に海外旅行者が訪れ、地域が賑わい潤う姿の実現を目指して、京都市、大阪市、神戸市、奈良市、堺市を拠点（コアエリア）として広域観光ルートの形成を図る“THE EXCITING KANSAI”の取り組みを進めている。

具体的には関西全体を8つのエリアに分け、自治体、地域づくり法人や企業などと協働して地域の価値やコンテンツを洗い出し、共通のテーマやストーリーでつなぐ広域観光ルートを巡る旅行商品の造成や、各地での体験型商品の集約実施、それらの素材を旅行者の興味や関心を惹きつける動画や Web サイトによって情報発信を行っている。

関西観光本部では、この広域観光ルート“THE EXCITING KANSAI”やテーマツーリズムを両輪として世界に訴求し、「KANSAI」が世界の旅行者から目的地として選ばれる「グローバル・ツーリズム・デスティネーション」の実現を目指している。



① 8つの広域観光ルートの概要

i) 紀伊半島エリア

和歌山県・奈良県・三重県…「心の原点への巡礼の旅」のエリア
巡礼の道、熊野古道は千年以上の時を経て日本の精神の原点を現代に残す。自分に向き合い高めるスピリチュアルな道。

【主要観光素材】熊野三山、高野山、熊野古道、吉野、十津川等



ii) 播磨エリア

兵庫県…「名城と侍文化、海の道」のエリア

都と西国を結ぶ要衝にあって、世界遺産 姫路城を中心に今でも残る戦国・侍文化。現代に至るまで多様な文化を受け入れながら発展している。

【主要観光素材】姫路城及び播磨エリアの城郭、圓教寺、赤穂、有馬温泉、神戸灘の酒蔵等



iii) 琵琶湖西岸～北陸エリア

滋賀県・福井県…「水がはぐくむ文化と信仰」のエリア

日本最大の湖琵琶湖。後背地の山々の豊かな雪解け水は田畑を潤し、水郷を形成しながら暮らしや信仰に息づいている。

【主要観光素材】琵琶湖、比叡山延暦寺、永平寺等

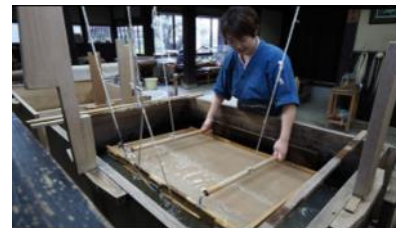


iv) 福井～琵琶湖東岸エリア

滋賀県・福井県・三重県…「戦国文化とクラフト」のエリア

多くの武士が往来し武家文化・忍者文化が栄えたこのエリアは、千年以上続く伝統工芸から現代的なものまで「クラフト」のエリアでもあり、多くの匠を育ててきた。

【主要観光素材】越前漆器、越前打刃物、信楽焼、彦根城等



v) 神戸～淡路島～徳島エリア

兵庫県・徳島県・和歌山県…「パノラミックな国生みの海」のエリア

内海ゆえの島影や渦巻く潮流など穏やかで広大で変化に富んだ海。ゆっくり滞在すると海に日が昇り、沈み、そこに生まれた国生みの神話や生活者の文化も見えてくる。

【主要観光素材】明石海峡大橋、鳴門の渦潮、人形浄瑠璃、藍染め等



vi) 山陰海岸エリア

京都府・兵庫県・鳥取県…「海岸美と恵み」のエリア

奇岩や断崖の岬と漁村が交互に続く独特の地形は、息をのむ景色と豊かな漁場、穏やかな人々の営みを形成している。

【主要観光素材】天橋立、伊根の舟屋、城崎温泉、浦富海岸、鳥取砂丘等



vii) 奈良～伊勢エリア

奈良県・三重県…「神話から古代へ、日本の原点」のエリア

神話時代までさかのぼる日本の原点。政治・文化のオリジンはここにあり、いくつもの時代の足跡が多重に折り重なる。

【主要観光素材】伊勢神宮、海女文化、斑鳩、飛鳥、吉野等



viii) 丹波エリア

京都府・兵庫県…「実りの里山」のエリア

京都と兵庫にまたがる「丹波国」は独自の作物が実る、豊穡の里山。そこに街道の要衝となる城下町や、都の食材を支えた町など個性が光る暮らしがある。

【主要観光素材】丹波篠山の城下町、丹波焼、美山、丹波の食材等



② 新たに3つの「広域観光ルート旅行商品」を造成し販売開始

これまで高額消費者層を対象に、8つのエリアそれぞれを象徴する広域観光ルート旅行商品を順次造成してきた。2021年度は新たに「山陰海岸・若狭（京都府北部～若狭湾～福井県）」、「丹波」、「神戸～淡路島～徳島」の3つのルートの商品を造成、販売を開始した。既に販売している「播磨」、「山陰海岸（京都府北部～兵庫県～鳥取県）」、「琵琶湖西岸～北陸」の3つのルートに加え、関西圏での楽しみ方がさらに広がっている。



● 山陰海岸・若狭（京都府北部～若狭湾～福井県）で新たに拡充した旅行商品

URL：<https://www.okujapan.com/trips/kyoto-to-fukui-self-guided-walking-tour-5-days>

● 丹波で新たに整備した旅行商品

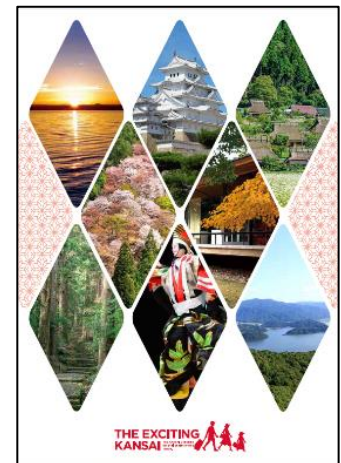
URL：<https://www.japanwondertravel.com/posts/explore-the-best-harvest-in-kyotamba-from-kyoto>

● 神戸～淡路島～徳島で新たに整備した旅行商品

URL：<https://www.okujapan.com/trips/tokushima-to-kobe-self-guided-walking-tour-4-days>

③ 「THE EXCITING KANSAI」専用サイトのリニューアルと多言語デジタルパンフレット作成

8つのエリアを新たに取材撮影し、美しい写真で紹介する Web サイトをリニューアルした。この Web サイト内では、広域観光ルート旅行商品をはじめ、各地域の魅力を体験できるツアーや体験コンテンツを紹介し、サイト上でスムーズに予約までできる形でご案内している。また、各エリアの魅力を一冊にまとめたデジタルパンフレットを英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）の7言語で作成、海外旅行者に関西の魅力を発信している。



● “THE EXCITING KANSAI” 専用サイト、デジタルパンフレット

URL：<https://www.the-kansai-guide.com/en/exciting/>

④ 関西各地と連携して着地型旅行商品をオンライン旅行会社で販売開始

関西各地の地域 DMO（観光地域づくり法人）と連携して「20 の旅行商品」を厳選、「The Recommended Tour」として、“THE EXCITING KANSAI”専用 Web サイト内で紹介するとともに、オンライン旅行会社（以下、OTA）サイト “UJ” 内のオリジナル専用ページで販売している。このうち一部の旅行商品については、UJ と連携している大手の OTA 3 社（KKday 社、Get Your Guide 社、ノットワールド社）でも販売している。

● 「The Recommended Tour」を販売する専用 OTA “UJ”

URL：<https://unexpected-japan.com/exciting-kansai/>

2) 第1回 日本観光ショーケース in 大阪・関西にて広域観光ルート“THE EXCITING KANSAI”をPR

関西全域が一体感をもって「ONE 関西」の取組を推進するため、関西ブロック広域観光振興事業推進協議会、大阪観光局、ひょうご観光本部、京都府観光連盟、奈良県、和歌山県観光連盟、びわこビジターズビューローと合同で、2022年3月25日～27日の間、インテックス大阪で開催された「第1回日本観光ショーケース in 大阪・関西」にブース出展し、関西を8つのルートで紹介する広域観光ルート“THE EXCITING KANSAI”の魅力をPRした。



3) 通訳案内士育成強化による受入環境整備

アフターコロナにおいて更にFIT化傾向が進むとみられるインバウンド市場において、旅ナカで直接訪日外国人旅行者に接する通訳案内士の重要性は更に高く、観光の重要な人的インフラとして支援を強化している。

2021年度は、2017年度から継続的に関西広域連合・関西観光本部共催で実施している「通訳案内士スキルアップ研修」として、オンラインセミナー、実地研修を加重して開催・実施した。

更に、通訳案内士自らがプライベートなガイドツアーを企画・造成・販売し、これからのインバウンド市場における訪日外国人旅行者の様々なニーズに対応する関西発のツアー検索サイト「Kansai Recommended Guide」を構築、これに合わせてツアー造成ノウハウ向上に向けたセミナー動画も制作し配信している。

2021年度の「通訳案内士スキルアップ研修」は、新型コロナウイルス感染防止を勘案してセミナーは全て動画配信によるオンラインセミナーとした。「お祭り」「富裕旅行者層向け」「文化観光」「酒蔵ツーリズム」「感染防止」「ガイドツアー造成」などをテーマに全20講座のセミナー動画（30分から40分）を制作し希望される通訳案内士に専用サイトから配信している。また、オンラインセミナーに連動して、「お祭り」「文化観光」「酒蔵ツーリズム」「山陰海岸ジオパーク」などをテーマに全13回の通訳案内士を対象とする実地研修を実施した（延べ188名参加）。

参加者を中心に、構築した検索サイト「Kansai Recommended Guide」を活用して、プライベートな魅力あふれるガイドツアーの造成・販売を進めている。



4) ホテルコンシェルジュネットワーク構築

訪日外国人旅行者との接点が多く、特に旅ナカの高額消費者層に対して強い影響力を持つホテルコンシェルジュ等に対して、関西の高質な観光情報を提供することは旅行消費額増の観点からも重要である。そのため、近畿運輸局と連携し、FIT 層の多種多様なニーズに対応した観光情報を提供するためのネットワーク構築と、旅行者ニーズにマッチした対面での情報発信に向けた枠組を形成し、旅行者に対する観光情報の多角的アプローチに寄与するためのネットワーク構築に引き続き取り組んだ。

具体的には、2021 年 9 月 16 日に累計 3 度目となる意見交換会を開催し、かねてより要望の強かった通訳案内士とのマッチングも兼ねた実地研修を行った（延べ 9 名参加）。また、参加が叶わなかったホテルコンシェルジュに対しては、実地研修レポートやセミナー動画などの情報共有・提供を行った。



5) 酒蔵ツーリズム

国税庁支援事業として、関西の酒蔵を観光コンテンツとして磨き上げ、観光と販売を一体的に提供する企画である「酒蔵ツーリズム」の開発を進めた。具体的には、関西の通訳案内士を対象とする人材育成とガイドツアー造成促進、ホテルと連携した商品開発、海外別送実証事業を実施した。

● 人材育成

通訳案内士を対象とする富裕層に向けた酒蔵ツアーコンテンツのオンラインセミナーを開催した。泉州、京都、播磨の各酒蔵を中心にお勧めコンテンツを盛り込んだセミナー動画（30～40分）を3本制作し希望の通訳案内士に配信した。

● ガイドツアー造成促進

セミナー内容に基づく日帰り実地研修を各10名の通訳案内士対象に3回実施し、当本部にて構築したツアー検索サイト「Kansai Recommended Guide」を活用し、今後のツアー造成促進を図っている。

● ホテルと連携した商品開発

京都の酒蔵とホテル料理長によるオリジナルの日本酒マリアージュプランを開発、関係者による試食を行った。今後、具体的な商品としての提供を予定している。

● 海外別送実証事業

昨年度、ジャパンショッピングツーリズム協会と連携し開発した酒蔵訪問時における日本酒海外別送の課題である「インボイス作成の煩わしさ」「破損リスク」「国別通関事業が分かりにくさ」を解決する簡便な仕組み「Kansai Beaver Delivery」の対応力を更に強化するため、昨年実証した台湾、香港、シンガポールに4カ国（豪州、英国、中国、タイ）を加えて別送実証を行った。



2. 訪関西機運の維持醸成

1) 関西インバウンド観光サイト「The KANSAI Guide」を全面リニューアルオープン

2021年度は、新型コロナウイルス等による国際往来の制約が続くなか、2025年大阪・関西万博に向けて、関西インバウンド観光サイト「The KANSAI Guide」(以下TKG)のSEO※強化に着手し、2021年12月24日に全面リニューアルオープンした。

※SEO: Google等の検索エンジンの表示結果の上位に当該サイトが表示されるようサイトの内容を最適化すること

2018年度から実施している「訪関西意向調査」の2021年度版データによると、欧米豪の「関西」認知率は50.4%、来訪意向率は34.1%であり、なかでも来訪意向率の2018年度から2021年度の伸長率は、関西が8.4%増と全国トップとなった。こうした中で、世界中の海外旅行検討層を同サイトへ誘引し、関西の認知と来訪意向を高めていく。

● 全面リニューアルの内容

- ・SEO対策が効果的に機能するサーバーへの移転
- ・汎用ドメイン「.jp」から国際ドメイン「.com」に変更
- ・見やすく、使いやすいサイトへ、サイトデザインの変更

● 2021年度実績

サイト訪問者数(UU数) 644,532 (2020年度対比90.3%)

ページ閲覧数(PV数) 1,055,678 (2020年度対比93.7%)

※オーガニック検索流入数 2020年対比 781.7%



KANSAI Blogs



2) スモールマス市場に向けた「特別文化体験」「プレミアム文化観光ツアー」の造成

スモールマス市場の強い訪問動機となる地域のプレミアムな体験を、世界遺産非公開エリア等の特別な空間で、人間国宝等一流の文化人と触れ合う特別文化体験を造成した。さらに、その地域特有の上質な宿泊体験・食事体験を含めた希少な文化観光ツアーに仕上げている。

同ツアーの魅力訴求・販売促進に関しては、関わる OTA との導線設計を施したスペシャルサイト“Exclusive Expeditions | The KANSAI Guide - Exciting Journey”を TKG 内に構築して、掲載した「同ツアー紀行文」、「特別文化体験解説コラム」、「特別文化体験オンライン動画」を通じて、関西への訪問動機形成やツアー購入意向喚起を推進している。なお、当事業においては、ツアー売上代金の一部を関係する有形無形の文化財へ還流させるサステイナブルツーリズムの仕組みを取り入れている。

●スペシャルサイト：“Exclusive Expeditions | The KANSAI Guide - Exciting Journey”

URL <https://www.the-kansai-guide.com/en/exclusive-expeditions/>



3) 台湾オンライン大商談会

2022年1月11～14日、17～18日に、オンライン形式による台湾大商談会（台湾では関西大商談会）を近畿運輸局と共催し、「関西5府県連携教育旅行誘致セミナー・商談会」も併せて実施（同年1月17日～19日）した。

この商談会には、台湾から旅行会社 56 社と学校関係 40 校、関西からは 10 府県 4 政令市の観光担当者、5 府県の教育旅行コーディネーターの他、宿泊/飲食/観光施設・鉄道会社・DMO・観光協会等 65 団体が参加し、1,053 商談が行われた。

併せて各府県政令市による観光セミナーを実施するとともに関西観光本部等が作成した機運醸成動画を放映した。

台湾オンライン大商談会は、2年連続となるが、台湾の関西への高い関心が感じられた。



4) 中国オンライン大商談会

中国市場では初めてのオンライン商談会を、2022年3月4日、7日～11日に近畿運輸局と共催し、3月10日～14日の平日には「関西5府県連携教育旅行セミナー・商談会」も併せて実施した。

中国から富裕地区とされる3省2特別市（広東省・江蘇省・浙江省・北京市・上海市）を中心に150団体、関西からは10府県4政令市の観光担当者、5府県のエデュケーションコーディネーターのほか、宿泊／観光施設・鉄道会社・DMO等51団体が参加し、1,142商談が行われた。また、各府県政令市による観光セミナーや関西観光本部等が作成した機運醸成動画を放映した。往来再開が見通せない中、日中双方とも、この時期での商談会に満足度が高く、特に中国広域の旅行社との商談ができるというオンラインの良さを評価いただいた。

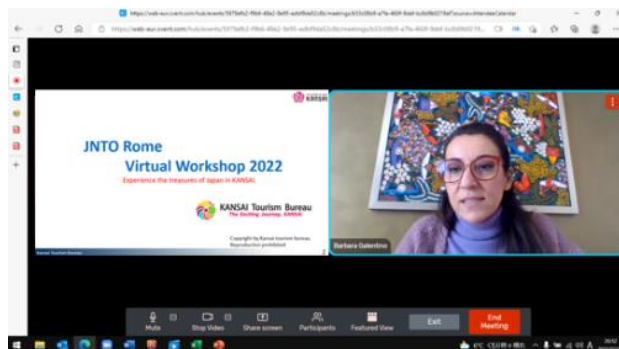


5) イタリア市場オンライン訪日旅行セミナー・商談会「JNTO ROMA Virtual Workshop 2022」

2022年2月1日にJNTO ローマ事務所が開催したイタリア現地旅行会社等を対象としたオンライン訪日旅行セミナー・商談会「JNTO ROMA Virtual Workshop 2022」に参加した。

商談会には、イタリアから32社が参加し、うち10社と商談を行い、残りの22社に対しては、当本部Webサイトの紹介とイタリア語デジタルパンフレットや各府県市作成のプロモーション資料を送付し、各社との関係構築に努めた。

事前にプレゼンテーションビデオや当本部のサービス、広域連携DMOとしての役割をバイヤーにご覧いただいた上で商談を進め、イタリアでのプロモーションやツアー造成に必要な具体的情報（特に新しい宿泊施設）を求められるなど、内容のある商談が行われた。



6) 招請事業（ファムトリップ）

① 東南アジア対象ランドオペレーターファムトリップ

2021年7月7日～9日の日程で、東南アジア市場を主に担当する首都圏のランドオペレーター13社15名を対象としたファムトリップを実施した。

近畿運輸局と連携して実施した本ファムは、視察エリアを、「THE EXCITING KANSAI」の8つのエリアの一つである「紀伊半島（熊野古道）」とし、白浜、熊野古道大門坂、熊野那智大社、青岸渡寺、那智の滝、熊野本宮大社などを視察したほか、行程中に和歌山県・三重県・奈良県の県内観光事業者との商談会を開催し、アフターコロナを見据え、旅行ニーズの変化に適応したコンテンツなどを相互確認することができた。



② 豪州対象メディア&ランドオペレーターファムトリップ

2022年2月1日～5日の日程で、近畿運輸局と連携しオーストラリア市場を対象としたファムトリップを実施した。

招請対象は、有力な旅行雑誌2誌の担当者とランドオペレーター2社、視察エリアは“THE EXCITING KANSAI”の8つのエリアの一つである「山陰海岸」とし、鳥取砂丘らくだライド、多鯨ヶ池カヤック、奥神鍋スキー、テント宿泊などのアクティビティ要素のほか、関西空港 PCR 検査センターにて防疫体制に関する情報も提供したうえでメディア掲載に繋げた。

さらに、ランドオペレーター2社には、麒麟のまち観光局、豊岡観光イノベーション、海の京都 DMO と面談を設定し、往来再開を視野に各地域の取組や観光情報の共有を図った。



③ マレーシア対象 SNS インフルエンサーファムトリップ

2022年2月20日～23日の日程で、近畿運輸局と連携し、日本を拠点に旅行・ライフスタイルにおいて影響力を持つマレーシア人インフルエンサーを招請したファムトリップを実施した。

視察エリアは“THE EXCITING KANSAI”の8つのエリアの一つである「播磨エリア」で、家族層をターゲットに大阪から2時間以内で楽しめるスポットにフォーカスし、姫路から神戸、有馬温泉、六甲山を巡り、いちご狩りやスキー体験など、家族で楽しめるアクティビティを中心に SNS 発信を行った。また同年3月4日に同インフルエンサーから、マレーシアの大手旅行会社2社に対して、コースの見所紹介セミナーを実施するなど、往来再開を見据えた商品化促進にも努めた。



7) 高級海外旅行誌を通じた訴求

① National Geographic Traveller UK・Travel 誌への掲載

英国及び英語圏で強い影響力のある旅行誌である「National Geographic Traveller UK・Travel 誌」で、近畿運輸局と連携して関西特集記事を掲載（2022年3月3日に英国で発刊）した。

京都・兵庫・鳥取三府県広域観光交流圏推進実行委員会、福井県、びわ湖大津観光協会、京都府、海の京都 DMO 並びにお茶の京都 DMO の協力のもと、“THE EXCITING KANSAI”の中から、「山陰海岸」・「福井～琵琶湖西岸」の自然の魅力と、「都文化の源流をたどる」をテーマに茶道を都文化の集大成と位置づけ、京都府を取り上げた。WEB 記事としても同誌のサイトに掲載され、今後のプロモーションでの活用も可能となった。



② National Geographic Traveller UK・Food 誌 への掲載

英国及び英語圏で有力な旅行誌「National Geographic Traveller UK・Food」に、英国で関心の高い「食」について、近畿運輸局と連携して関西特集記事を掲載（2022年3月3日に英国で発刊）した。

京都府の協力のもと、最高のルームサービスとしての日本旅館での部屋食、茅葺屋根の古民家で囲炉裏を囲んでの田舎料理、道の駅で地元食材を購入して隣接するホテルで食事を楽しむスタイル、そして、ホテル敷地内の数寄屋風日本旅館に滞在しながらホテル内レストランで味わう鉄板焼きなど、4つのスタイルを宿泊施設ごとに紹介した。



8) 米国市場旅行博 Los Angeles Travel & Adventure Show (LATAS) 2022 出展

2022年3月12日～13日に、米国ロサンゼルスで2年ぶりにリアル開催された Los Angeles Travel & Adventure Show (LATAS) 2022 に近畿運輸局と連携し出展した。これは、新型コロナウイルス感染症収束後の北米マーケットにおける訪日需要の獲得を目的としたもので、ブースでは、構成府県市の最新観光情報を発信するとともに、在米有力旅行代理店14社との意見交換や商談、100名を超える来場者アンケートを展開し、コロナ後のマーケット需要変化を把握した。また、「2025年大阪・関西万博」の情報提供等も行い、注目を集めるなど、日本のインバウンド観光再開への期待の高まりを確認、出展風景はNHKニュースでも放映された。



9) 欧州4言語旅行系 Web メディア記事掲載

関西ブロックを超えた連携によるプロモーション事業（スペイン・イタリア・フランス・ドイツ市場における Web 記事掲載事業）を近畿運輸局と行い、欧州4言語で“THE EXCITING KANSAI”を紹介する記事を作成し、2022年2月下旬より有力な欧州4ヶ国の旅行メディアに掲載した。

フランス ・ Lonely planet France

スペイン ・ Viajes National Geographic

ドイツ ・ National Geographic Deutschland

イタリア ・ Dove Viaggi ・ Paesi Online

欧州プロモーションにおいて各言語で紹介されたパンフレットが求められる中、各国の目線や言語で紹介した記事は、今後のプロモーションでも活用予定である。



10) ドバイ万博におけるプロモーション

中東及びアフリカ地域では初の登録博覧会として「2020 年ドバイ国際博覧会」（以下、「ドバイ万博」という）が、2021 年 10 月 1 日～2022 年 3 月 31 日までの 182 日間開催された。

ドバイ万博日本館の展示ブース、展示シーン 6「いのち輝く未来社会のデザイン Expo 2025 Osaka, Kansai, Japan」では、当本部が取り組んでいる広域観光ルート“THE EXCITING KANSAI”に基づき、関西 2 府 8 県が「8 つのエリア、8 つのストーリー」で紹介された。

▼日本館の展示ブース「展示シーン 6」の様子



（2020 ドバイ国際博覧会日本館 提供）

また、2021 年 11 月 3 日～13 日の会期で、万博開催地ドバイの隣国シャルジャにて実施された世界最大級の第 40 回シャルジャ国際ブックフェア（40th Sharjah International Book Fair）に、関西広域連合のトッププロモーション事業として出展し、ドバイ万博日本館への誘客を主眼に関西の魅力を発信するとともに、「2025 年大阪・関西万博」を世界に向けて PR を行った。

同ブックフェアプレスセンターでのメディアキットの配布に加え、出展ブースでは、ドバイ万博日本館および大阪・関西万博のポスターの掲示、観光パンフやノベルティの配架、SNS 等での情報拡散によりドバイ万博ジャパンデーや関西各地のプロモーションを行ったほか、来場者が当本部の法被で記念撮影するなど、和やかな雰囲気の中で関西の認知度向上を図った。

これらの期間、関西観光本部の情報発信サイト（TKG）への UAE からのアクセスが急激に上昇するなど、これらのプロモーションの効果を確認できた。



11) 台湾新光三越 台北信義新天地「日本商品展」における関西プロモーション

昨秋の台湾カルフル「日本週 関西特展」への協賛に続き、2021 年 10 月 21 日～11 月 7 日まで、台湾新光三越百貨店の台北信義新天地にて開催された「日本商品展」にて「関西観光特展」ブースを出展し、関西の魅力発信と訪関西機運醸成を行った。本事業は「地域の観光資源を活用したプロモーション事業」の一環として近畿運輸局と連携し、合同会社ユー・エス・ジェイや関西国際空港全体構想促進協議会等の協力も得て実施した。

開催期間中 18 日間で「日本商品展」に約 14 万人、うち約 1 万 2 千人がブースに来場した。「早く関西を旅行したい」等、国際往来再開後の関西への訪問を楽しみにしている声が多く寄せられた。



1 2) ベトナム国営放送を通じたプロモーション

2020 年度に総務省「放送コンテンツ海外展開強化」事業の一環として、関西テレビと連携して関西を紹介するミニ番組をベトナム国営放送で放映し、累計約 835 万人が視聴した。2021 年度も総務省「放送コンテンツによる地域情報発信力強化」事業の一環として、関西テレビと連携し、“THE EXCITING KANSAI”の 8 ルートを中心とした関西各地の魅力を紹介する短編番組「THE EXCITING KANSAI ～日本の関西 美しき 40 選～」として 2021 年 10 月～11 月にベトナム国営放送公式 Facebook 等で発信し、2 千万人を超える視聴があった。さらに 2022 年 1 月～2 月にこの短編番組を日本語版に編集し直し、関西テレビにて放映し、国内旅行需要喚起を行った。



1 3) 留学生（関西国際大学在校生）による情報発信

2021 年 8 月 24 日～26 日の日程で、関西国際大学国際観光専攻の留学生・学生を対象としたファムトリップを、淡路島観光協会の協力のもと、コロナ感染予防対策に十分配慮して実施し、若い感性と外国人目線で「観光」「グルメ」をテーマに、淡路島の魅力を紹介する 2 本の動画（3 か国語の字幕化）を制作、ベトナム・中国・韓国に向けて情報発信した。

実施前には、オンライン授業等で、自治体が PR したい場所、学生が取り上げたい場所やコンテンツ、ストーリーを話し合っており、観光政策やインバウンド施策だけでなく、動画制作や撮影の心得・テクニックを講義するなど、観光に関連する幅広い就業体験の機会も含め提供できた。



3. 国内観光需要の関西への取込促進

1) 国内向け関西広域観光サイト「Premium 関西」開設

国際往来再開期が不透明な中、国内観光需要の取込を図るべく、2021年6月21日に、関西ならではの上質なステイ、美食、特別な文化鑑賞や体験、快適な移動体験を中心に上質な関西を訴求する国内向け観光情報サイト「Premium 関西」を公開した。掲載カテゴリーは、①関西のこだわりステイ、②関西ならではの美食体験③ここ에서만出会えない絶景、④関西の歴史を感じる文化体験、⑤おすすめの旅・体験など。

また、7月1日には同月中旬から開始された Go To トラベル事業の関西受皿として「Enjoy 関西」特集を Premium 関西内に新設し、関西2府8県における独自キャンペーン等のお得な旅の情報、当本部会員が提供する旅情報の発信に努めた。



2) 関西観光本部制作動画の国内タイアッププロモーション

① ANA 機内にて TEK オリジナルミニ番組を上映（2021年3月1日～5月31日）

- ・国内線 前方スクリーン：2021年3月1日～31日（奇数便にて上映）
- ・国内線 Wi-Fi エンターテインメント：2021年4月1日～5月31日
- ・機内誌「翼の王国（約7万部）」2021年3月号にて“Premium 関西”を PR

※広告費換算：1380万円相当



② 全国 917 店のヤマダ電機 TV 売場にて 4K 文化動画を上映（2021 年 4 月～2022 年 3 月）

船井電機新製品 TV のデモ動画に 4K 文化動画が採用される。

※ヤマダ電機来店者概況

月間来店者数 2000 万人、同 TV 売場来店者数 1200 万人、同売場平均滞在時間 16.5 分、デモ映像視聴者数 246 万人/1 週間

※広告費換算：1 億 400 万円相当



3）在留外国人向けフリーペーパー「関西 Weekender」冊子制作

創刊 51 年を迎える英字マガジン「Tokyo Weekender」の別冊版関西特集として、「Kansai Weekender」を作成した。

14 構成府県市の基本情報・テーマツーリズム（食・文化・アドベンチャー）、6 府県の産業や“THE EXCITING KANSAI”を取り上げ、製作において関西広域連合（観光・産業）並びに京都府、徳島県、滋賀県、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、福井県、三重県、京都市、大阪市、堺市、神戸市の協力を頂いた。

冊子は在留外国人に向けて、国内の各国大使館、外資系企業、高級レジデンス、学校、高級旅館・ホテル等約 350 箇所に配布し訪関西意向アップに努めた。また、海外 11,000 の旅行代理店やメディアへ、ニュースレターとして Web 素材を直接配信した。



4）子供たちのための伝統文化の体験機会回復事業「関西キッズ伝統文化プログラム 2021」

本イベントは、各地域の子供たちを対象に、リアルイベントによって実際に伝統文化に触れる機会を創出するとともに、Web 上にて情報発信を行い、機会増大を図り、サステナブルな文化観光資源の活用促進につながることを目的に文化庁が企画した事業であり、当本部が受託して実施した。

具体的には、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、徳島の 2 府 6 県それぞれの商業施設内のイベント会場にてそれぞれ 1 日の伝統文化の体験イベントを開催した。各会場では、共通芸能の落語と昔遊び・けん玉とそれぞれ踊りや浄瑠璃など 4 種の地域色ある伝統文化による 1 時間程度の体験教室を計 15 コマ開催するとともに、特設ステージでの伝統文化実演鑑賞を行った。合わせてホームページを開設し、イベントの様子や伝統文化実演などのアーカイブ配信を行っている。各会場では、日頃体験する機会の少ない、例えば三味線、琴、笙などの楽器、人形浄瑠璃、地域の踊り、



けん玉まわし、独楽づくり等に、目を輝かせて熱中する子供たちの姿が目立った。また、各会場のステージでは JAL（日本航空）ふるさと応援隊であるキャビンアテンダントが司会者として会場を賑わせた。



4. 「関西ツーリズムグランドデザイン 2025」の策定

大阪・関西万博が開催される 2025 年を目標年次として、関西が目指す姿や基本戦略等を取りまとめた「関西ツーリズムグランドデザイン 2025」を関西のインバウンド観光振興を担う主体とともに 2022 年 3 月に策定した。

策定にあたり、関西外の視点から意見をいただく場として国連世界観光機関（UNWTO）駐日事務所代表本保芳明氏を座長とする 6 名の有識者委員と当本部理事長、副理事長から構成する「有識者会議（8 月、9 月）」を開催し、その場の意見を「関西のインバウンド観光に関する提言」として取りまとめていただいた。

それを基に、行政、民間、地域等の各主体で構成される「策定会議（11 月、3 月）」において議論を重ね、新たなグランドデザインの成案を得た。

今後、各主体が「ONE 関西」の体制で、3 つの基本戦略と 4 つのアクションに基づき、新たに定めた KANSAI の魅力を表すキャッチコピー「The Origin of Japan , KANSAI」も活用しつつ、“KANSAI”の魅力を世界に発信していくことにより、“KANSAI”がグローバル・ツーリズム・デスティネーションとなることを目指すこととなった。



第一回有識者会議（2021 年 8 月 4 日）



第一回策定会議（2021 年 11 月 30 日）

5. 組織の基盤・ネットワークの強化

1) 外国人向け情報誌「KANSAI OFFICIAL TOURIST GUIDE」発刊

訪日外国人旅行者向け英語版ガイドブック「KANSAI OFFICIAL TOURIST GUIDE 2022-2023」を2022年3月に発刊した。

本ガイドブックは、会員企業・団体の広告とともに、旅行に役立つ関西の地図、交通路線図や“THE EXCITING KANSAI”の8つのルートの魅力など、訪日外国人旅行者にとって役立つ情報を掲載しており、関西エアポートをはじめ関西のインフォメーションセンター約60か所の他、在大阪／神戸領事館にも配架した。また、デジタル版を多言語（注）で作成し、当本部が運営するWebサイト「The KANSAI Guide」に掲載するほか、海外での旅行博にも対応する。

（注）英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語、中国語（繁体字）、中国語（簡体字）、韓国語、タイ語、日本語



2) 関西インバウンド交流会 2022 on the WEB

2018年・2019年と過去2回開催した関西インバウンド交流会を、2021年度に引き続き本年度もオンラインにて開催し、当本部の構成団体・会員、DMO団体、官公庁等275名の参加申込を得て実施した。

この交流会では、観光庁及びJNTOの実務トップから国の政策やプロモーションの現状と今後について紹介いただいた。また、当本部の海外プロモーションオフィスからインバウンド最新動向レポート、当本部職員による事業報告、会員企業による事例紹介セミナーを4チャンネルに分けて配信した。

開催日時	2022年3月23日（水）13:00～16:00
開催形式	Zoomによるライブ配信（オンライン視聴） ※一部、録画配信あり
参加申込	会員・構成団体、DMO団体、官公庁等 一般公開 275名
内 容	・ 観光庁次長 村田茂樹氏「観光の現状と今後の取組について」 ・ JNTO 理事長代理 吉田晶子氏「ポストコロナの日本のインバウンド観光」 ・ 海外プロモーションオフィス（ソウル、香港、北京）からインバウンド最新動向についてのレポート ・ 当本部の活動や事業に関する報告 ・ 会員企業による事例紹介セミナー： 会員6社登壇

3) 会員への情報発信強化

依然としてコロナ禍の影響により行動制限がある状況下において、構成団体・会員情報発信の強化に努めた。今年度の会員へのインバウンド情報等の提供回数は127回（前年度126回）となり、内訳は「訪日外国人旅行動向データ／KPO レポート」21回、「新型コロナウイルス関連情報」70回、「研修および会員等からの告知」36回である。

また、2021年4月に、コーポレートサイトのリニューアルを行い、会員の商品やサービス等の案内を掲載する「会員からのお知らせ」を設けたほか、現在メールで配信している情報のアーカイブやセミナー動画などの

コンテンツを掲載した「会員専用ページ」を新設した。メールでの発信に加え、コーポレートサイトにおいても、55回の発信を行い、当本部の活動状況についても周知を行った。



4) 西日本経済協議会及び（公社）2025 年日本国際博覧会協会との連携

西日本の6つの経済連合会による西日本経済連合協議会の広域観光分科会が2025年の大阪・関西万博に向け、瀬戸内エリアの広域周遊促進に取り組むことから、関係する広域連携DMOとして当本部も今後協力することとなった。

また、広く海外に万博開催や西日本の魅力を発信し、瀬戸内を中心とした広域観光促進を進めるため、（公社）2025年日本国際博覧会協会、西日本の広域連携DMO、関係運輸局で「大阪・関西万博に向けた観光連携会議」を設置し、今後、具体的な取組みを進めることとなった。

6. 各種事業

1) 第19回 関西文化の日（関西広域連合・関西元気文化圏推進協議会との共催）

関西文化の日は、2021年11月13日・14日を中心日として、関西2府8県4政令市の域内にある美術館・博物館などの文化施設の入館料（原則として常設展）を無料とする取組みである。

2021年度の参加施設数は、引き続きコロナ禍での実施となったため昨年度の424施設から減少し、403施設（新規参加3施設）、総入場者数は約18万1千人、累計来場者数は約655万人となった。実施に当たっては、ポスター約2,678枚、リーフレット約11万8千枚を、配架協力をいただいた各文化施設、鉄道主要駅、高速道路サービスエリアなどで配布・掲出した。また、プレスリリースにより、各種ラジオ・情報誌・広報誌・マスコミ等のホームページ掲載などでの情報発信が行われた。

なお、「関西文化の日」等に参加の文化施設の情報は、Webサイト「関西文化.com」(<http://www.kansaiunka.com/>)にて通年で公開するとともに、各文化施設が任意で最新イベント情報の入力・更新ができる関西の芸術文化情報発信サイトとして展開している。



2) 関西文化の日プラス（関西広域連合・関西元気文化圏推進協議会との共催）

新型コロナの影響により落ち込んだ入館者数の回復を図るとともに、関西の文化施設の魅力に触れる機会を創出するため、2022年1月に「関西文化の日プラス」を実施した。

「関西文化の日」同様、関西一円の美術館・博物館・資料館等の文化施設の協力により、入館料（原則として常設展）を無料とする取組で、参加施設は112施設が参加し、期間中の総入館者数は約1.7万人となった。実施にあたっては、ポスター約1,500枚、リーフレット約6万4千枚を、文化施設、鉄道主要駅などで配布・掲出した。

また、プレスリリースにより、各メディアやWebサイト掲載などでの情報発信が行われた。



3) 関西元気文化圏賞

関西元気文化圏賞は、その年に文化活動を通じて関西から日本を明るく元気にすることに貢献した幅広いジャンルの人物・団体を表彰する事業であり、2003年から実施し19回目を迎えた。

2022年1月24日(月)、大阪市北区中之島のリーガロイヤルホテル大阪にて「2021年 関西元気文化圏賞」（文化庁芸術祭賞と共同表彰）の贈呈式を行い、関西元気文化圏推進協議会 松本正義会長（関西観光本部理事長）から受賞者へ賞状およびトロフィーが授与された。

なお、2021年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されたことから、今回は特別に、「東京2020オリンピック・パラリンピック特別賞」が設けられた。各賞を受賞された方々は下記の通り。



■2021 年 各賞受賞者（敬称略）

【大 賞】 オリックス・バファローズ

【特別賞】 塚本 康浩（京都府立大学 学長・獣医学博士）、文楽夢想実行委員会

【東京 2020 オリンピック・パラリンピック特別賞】

関西出身の東京 2020 オリンピック・パラリンピックメダリスト 31 名

東京2020オリンピック・パラリンピック特別賞 受賞者一覧（オリンピック）

府県	メダリスト	競技名
福井県	栗原 陵矢（くりはら・りょうや）	男子野球
	見延 和靖（みのべ・かずやす）	フェンシング/男子エペ団体
	吉田 正尚（よしだ・まさたか）	男子野球
三重県	向田 真優（むかいだ・まゆ）	レスリング/フリースタイル女子53kg級
	山田 優（やまだ・まさる）	フェンシング/男子エペ団体
滋賀県	大橋 悠依（おおはし・ゆい）	競泳/女子200m個人メドレー 競泳/女子400m個人メドレー
京都府	荒賀 龍太郎（あらが・りゅうたろう）	空手/組手男子75kg超級
	大野 雄大（おおの・ゆうだい）	男子野球
	山西 利和（やまにし・としかず）	陸上/男子20km競歩
	芳田 司（よしだ・つかさ）	柔道/女子57kg級
		柔道/混合団体
大阪府	浅村 栄斗（あさむら・ひでと）	男子野球
	市口 侑果（いちぐち・ゆか）	女子ソフトボール
	北園 丈瑛（きたぞの・たける）	体操競技/男子団体
	清原 奈侑（きよはら・なゆ）	女子ソフトボール
	清水 希容（しみず・きょう）	空手/女子形
	内藤 実穂（ないとう・みのり）	女子ソフトボール
	西矢 椋（にしや・もみじ）	スケートボード/女子ストリート
兵庫県	阿部 詩（あべ・うた）	柔道/女子52kg級
		柔道/混合団体
	阿部 一二三（あべ・ひふみ）	柔道/男子66kg級
	坂本 勇人（さかもと・はやと）	柔道/混合団体
	田中 将大（たなか・まさひろ）	男子野球
和歌山県	四十住 さくら（よそすみ・さくら）	スケートボード/女子パーク
鳥取県	入江 聖奈（いりえ・せな）	ボクシング/女子フェザー級(54-57kg)
受賞者	23名	

東京2020オリンピック・パラリンピック特別賞 受賞者一覧（パラリンピック）

府県	メダリスト	競技名
滋賀県	宇田 秀生（うだ・ひでき）	トライアスロン/男子（運動機能障害PTS4）
	木村 敬一（きむら・けいいち）	競泳/男子100mバタフライ（視覚障害S11） 競泳/男子100m平泳ぎ（視覚障害SB11）
大阪府	高松 佑圭（たかまつ・ゆか）	陸上/障害4×100mリレー（視覚障害、義足・機能障害、脳性まひ、車いす）
	中村 拓海（なかむら・たくみ）	ボッチャ（混合チーム/BC1/BC2）
	和田 伸也（わだ・しんや）	陸上/男子1500m（視覚障害T11） 陸上/男子5000m（視覚障害T11）
兵庫県	大矢 勇気（おおや・ゆうき）	陸上/男子100m（車いすT52）
	上地 結衣（かみじ・ゆい）	車いすテニス/女子シングルス
	倉橋 香衣（くらはし・かえ）	車いすラグビー
受賞者	8名	

【ニューパワー賞】 反田 恭平と Japan National Orchestra 株式会社、金子 扶生（バレエダンサー）

4）「KANSAI ONE PASS」及び「KANSAI Wi-Fi」の運営

訪日外国人向け優待特典付き IC カード型乗車券である KANSAI ONE PASS については、昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により国際往來が途絶えているため、販売枚数は 1 枚であった。

また、KANSAI Wi-Fi は、関西エリア内の各種主体が提供する無料 Wi-Fi サービスを利用する際に、それぞれに求められる認証手続きを一度で行うスマートフォン等の端末向けのアプリケーション提供サービスであるが、近年、同様の機能で日本全国をカバーする民間のアプリケーションが提供されていることもあいまって、ダウンロード数は限定的なものとなっている。

7. 管理運営活動（理事会・評議員会・運営会議）

1) 理事会

- ・第1回理事会（書面会議） 2021年6月2日（水）
第1号議案：2020年度事業報告書(案)の承認の件
第2号議案：2020年度計算書類等(案)の承認の件
第3号議案：評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等(案)の承認の件
第4号議案：役員等賠償責任保険契約継続に関する承認の件
- ・第1回臨時理事会（書面会議） 2021年6月25日（金）
第1号議案：専務理事の選定の件
第2号議案：臨時評議員会の開催及び目的である事項の承認の件
- ・第2回臨時理事会（書面会議） 2021年12月28日（火）
第1号議案：臨時評議員会の開催及び目的である事項の承認の件
- ・第2回理事会（書面会議） 2022年3月31日（木）
第1号議案：2022年度事業計画書(案)の承認の件
第2号議案：2022年度収支予算書(案)の承認の件

2) 評議員会

- ・第1回評議員会（書面会議） 2021年6月25日（金）
第1号議案：2020年度計算書類等(案)の承認の件
第2号議案：評議員候補者の選任(案)の件
第3号議案：理事及び監事候補者の選任（案）の件
- ・第1回臨時評議員会（書面会議） 2021年8月31日（火）
第1号議案：評議員退任に伴う評議員候補者の選任(案)の件
- ・第2回臨時評議員会（書面会議） 2021年12月28日（火）
第1号議案：評議員退任に伴う評議員候補者の選任（案）の件

3) 運営会議

- ・第1回 2021年5月17日（月）オンライン会議
- ・第2回 2022年3月 1日（火）オンライン会議

8. 会員関係

1) 会員数（2022 年 3 月 31 日現在）

・特別会員数（企業・団体等）	33（前年同日比較 ±0、±0%）
・賛助会員数（企業・団体等）	209（前年同日比較 +13、+6.6%）
会員数計	242（前年同日比較 +13、+5.7%）

以 上